



第1会場●4F 大研修室

■司 会/田上 明利 熊本県鹿本教育事務所 社会教育主事
濱島 真澄 鹿児島県立青少年研修センター 研修主事

1 NPO法人りべろの子ども支援プログラムの内容と展開手法 13:30～13:55

中川 一男 (島根県浜田市) NPO法人りべろ 統轄責任者

29泊30日の超長期のサマースクールである。子ども達に生活の中の自立を教えるために、事前に周到な準備をした上で、できるだけ人工の施設は利用せず、“むきだしの自然”に立ち向かわせることが重要であると考えている。仮のスケジュールは作成するが、子どもの意志決定、想像力、創造力を重んじ、日々の活動メニューの決定まで任せるように配慮した。

2 環境教育指導のためのスキルアップセミナー 13:55～14:20

－「プロジェクト・ワイルド」や「プロジェクト・アドベンチャー」の基本理念と技法－

中根 忍 (沖縄県北谷町) サンゴとブロッコリの森自然学校 代表

総合的学習への環境教育の導入を目ざし、学校とNPOが連携する委嘱事業の一環。プロジェクト・ワイルドとはアメリカで開発された教育者向けの生き物を題材とする環境教育プログラムを意味する。日本では(財)公園緑地管理財団がアメリカの環境教育協議会とライセンス契約して普及に務めている。一方の「プロジェクト・アドベンチャー」は人間関係づくりの技法である。本事業は沖縄県北谷町教育委員会との共催による小中学校教員や社会教育関係者を対象とした実践的セミナーである。

ティータイム 14:20～14:55

3 子育てネットワークの形成による活動・支援・協働の展開 14:55～15:20

－宗像子育てネットワーク「こねっと」の実践－

棚橋美智子 (福岡県宗像市) 子育てネットワーク：こねっと 代表

1999年1月に発足。現在9つのサークルが連携・交流している。活動は多岐に亘り、行政との協働を含む「外遊び講座」、「子育て講演」、「親子遊びの講師」、「こねっと通信」の発行、ホームページの作成、子ども祭の実行などである。子育て中の保護者の生の声を行政に伝えること、こねっとメンバーが行政の各種委員会に所属し、「子育てしやすいまちづくり」を目指して、会としての「提言」、「発信」にも力を入れている。今年度からは、行政と協働で子育て支援センター「ふらこっこ」の交流事業も実施している。

4 「有志指導者」による全日制「豊津寺子屋」の「保・教育」実践の原理と方法 15:20～15:45

－「元気のためのカリキュラム」の創造－役場内プロジェクト－学校施設の開放－

高津はるみ (福岡県豊津町) 「豊津寺子屋」実行委員会 会長

中村 彰夫 (福岡県豊津町) 同 副会長

「寺子屋」の指導は熟年を中心とした「有志」の住民指導者が行う。「表」の目標は子どもの元気を引き出す異年齢の「体験活動」を中核としている。「裏」の目標は指導に当たる熟年指導者のお元気と保育と教育を統合することによって女性の社会参画の条件を整備することである。運営にあたっては、学校施設の開放を日常化することによって実質的に学校の「コミュニティ・スクール」化を図り、合わせて役場内の関連部局の連携を前提とした「プロジェクト方式」を採用して、行政の縦割り／分断の弊害を予防している。最終目的は、子育て支援システムの「未来モデル」の創造である。

5 総括討論 15:45～16:15